

あいうた あつこ

本調子

1/4

工合	七	六	工	中尺合	合四七六工六七	〇	合		

七六工	中尺合	合四七王中							
-----	-----	-------	--	--	--	--	--	--	--

褪せた	写真	に	写	る	あ	なた	は	お	さ	な	き	私	を	抱	い	て
四		中	四上		四乙		中		上		中					

嬉	し	そうに	恥	す	かし	そうに	お	だ	や	か	に	笑	つ	て	ま	す
中	四		中		上	乙乙	上	中	工	中	上		四		合老	四

私	に	夢	見	て	わ	た	し	を	信	じ	じん	せ	い	を	注	ぎ	込	ん	で
四		中		上		乙四乙	四	中		上		中							

気	ぐ	ろ	う	だ	ら	け	の	強	き	あ	なた	は	ひ	つ	そ	り	と	星	に	な	っ	た
中	上	四		中	四上	乙四乙		四	中	中	上		合老	四	四							

あ	なた	の	望	ん	だ	人	に	な	れ	た	か	分	か	ら	ず	私	は	夜	ぞ	ら	に	い	の	る
五		中	王	上	四上	王五		中	王	上	四上													

		中			七		中	五	七	六	五		七		六	届								

け	た	い	あ	お	き	ひ	は	い	え	な	か	つ	た	「	あ	り	が	と	う	」	愛	し		
五							四	合	四	乙	中	合	五	中	四					四				

て	る	を	ぬ	く	も	り	を	く	れ	た		あ	なた	に	届									
乙	中	合四王中	七		中			五	七	六	五	七		六										

く	か	な	し	わ	く	ち	や	な	そ	の	手	思	い	唄	う	か	ら	伝	え					
五		五	中	四	合	四		中	合	五	中		合	四										

る	か	ら	こ	こ	ろ	か																		
中		中		四		七	六	工	中	尺	合	合	四	七	王	中								

あいうた

あつこ

本調子

2/4

二度と会えぬと知つていたなら話したい事があつた

四合中上四中中上中

二度と会えぬと知つていたならしたい事があつたのに

四合中上四中中上合老四合四王

嘘つき傷つけ責めてばかりの愚かな私を許し続けて

五中王上四上王五中王上四上

やさしきをくれたあなたに届

中合四王七中五七六五七六

けたいあおきひはいえなかつた「ごめんね」を「愛し

五中四合四乙中五中四合四

てる」を厳しさをくれたたあなたに届

乙中合四工七中五七六五七六

くかな真つ直ぐなその目思いい唄うから伝

五中四合四乙中五中四合四

えるからこころから人は忘れ

乙中中四四合四七五五五

行く生き物とかしこきひとは説くけれどあなたとの

中王中上工中中上中五王五

事は忘れないいのち果てるまです

中王五五五七八工合

安らぎをくれたあなたに届けたいおそ

七中五七六五七六五五五

いけどかなしいけど「いつまでも愛してる」を

中四合四乙中五中四合四乙中合中

あいうた

あつこ

本調子

3 / 4

	幸
七	せ
	を
	くれ
	た
七 六 五	あなたに
七	
	届
六	
	くかな
五	さよ

中	うな
四	ら
合	
四	忘れ
乙	ない
中	い
	よ
五	遠
中	くか
四	ら
四	見つめ
乙	てい
中	て
中	これ

	から
四	を
七	
六	
工	
中尺合	
合四七六工六七	
〇	
合	

[illegible]

あいうた あつこ

本調子

4/4

一、褪せた写真に 写るあなたは 幼き
私を抱いて 嬉しそうに 恥ずかし
そうに おだやかに 笑ってます 私
に夢見て 私を信じ 人生を注ぎ込
んで 気苦労だらけの 強きあなた
は ひっそりと星になった あなた
の望んだ人になれたか分からず 私
は夜空に祈る ほほえみをくれた
あなたに届けたい 蒼き日は言えな
かった「ありがとう」「愛してる」
を ぬくもりをくれた あなたに届
くかな しわくちやなその手 思い
唄うから 伝えるから 心から
二度と会えぬと知っていたなら 話
したい事があつた 二度と会えぬと
知っていたなら したい事があつた
のに 嘘つき 傷つけ 責めてばか
りの 愚かな私を許し続けて やさ
しさをくれた あなたに届けたい
青き日は言えなかった「ごめんね」
を「愛してる」を 厳しさをくれた
あなたに届くかな 真っ直ぐなそ
の目 思い 唄うから 伝えるから
心から 人は忘れ行く生き物と
賢き人は説くけれど あなたとの事
は忘れない 命果てるまで 安らぎ
をくれた あなたに届けたい 「い
つまでも愛してる」を 幸せをくれ
た あなたに届くかな さようなら
忘れないよ 遠くから見つめてい
て これからを